



1. 札幌市内の火災のようす

1年間でどのくらい火災が起きているのか見てみよう。2024年中(速報値)

私たちの暮らしにかかせない「火」は、扱い方をまちがえると、大切な家や自然、そして、かけがえのない命までも奪ってしまいます。火災のない安全な暮らしをするために、私たちは、どのようなことに気をつければ、よいのでしょうか。みんなで一緒に考えていきましょう。

住宅用火災警報器 ジューケーキ

火災の煙を誰よりも素早く発見し、みんなに知らせるハイテクマシン。ほこりを取ってあげると喜ぶ

救急隊 レイ

ユウトの幼馴染で、どんな人にも思いやりを持ち、礼儀正しく接する女の子。休みの日も救急の勉強をする頑張り屋さん

消防隊 ユウト

勇敢な消防士である父を目標に、どんなに大きな火災でもみんなの先頭に立って消火する消防のスペシャリスト。休みの日は小学校で子どもたちに消防の仕事を教えている

消火器 イクス

最新鋭のコンピュータを搭載し、消防隊員の活動を支援する「消防エミュレーター」。湿気の多いところが苦手

救助隊 イチロー

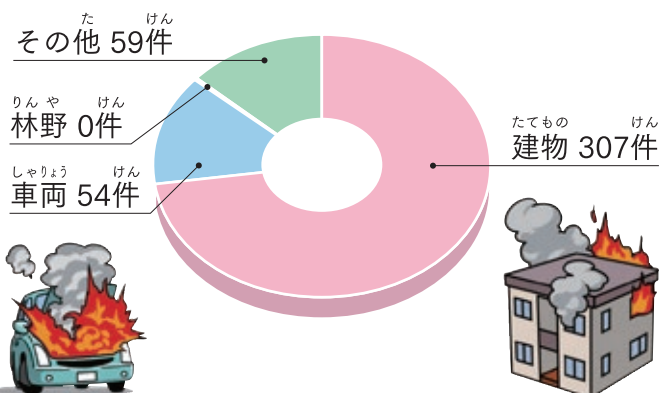
ユウトの親友で、チームワークを大切に、どんな困難な状況でも抜群の運動神経で乗り越える救助のスペシャリスト。山登りやダイビングなど多彩な趣味を持つ

火災の発生件数

420 件

火災の約70%が住宅などの建物から発生しています。

※グラフの「その他」とは、空き地の枯れ草やごみステーションなど、屋外で発生した火災を言います。



火災の原因

火災の多くが「つい・うっかり」といった不注意から発生しています。

子どもの火遊び 6件



ストーブ 27件



たばこ 42件



電気関係 100件



こんろ 63件



放火 61件



火災でなくなった人

19 人

火災で発生する有毒な煙を吸ったり、やけどでなくなっています。

火災でケガをした人



84 人

避難している時に、ケガをしたり、熱い空気を吸ってのどをやけどしたりしています。

燃えてしまったものをお金にすると

約5億36万円

みんなが学校で使っている机といすを2万円とすると、約13,452人分が灰になったことになります。

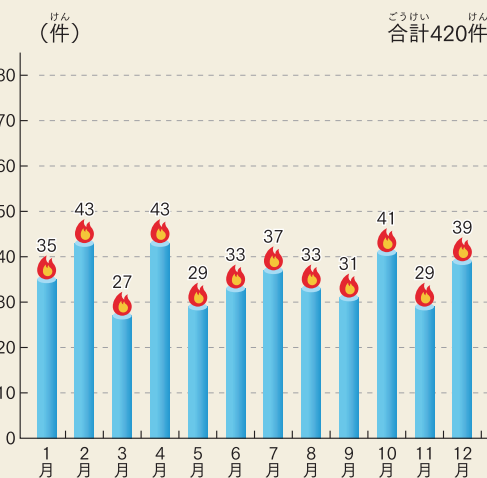
建物が燃えた広さ

4,497 m²

小学校の教室の広さであれば、約70教室も燃えたことになります。

月ごとの火災の件数

空気が乾燥しやすい春に火災が多く発生しています。



出火時間別火災発生件数

午前中はごみ収集車からの火災が多く発生しています。

